

(様式2)

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570600369		
法人名	社会福祉法人いじみの福祉会		
事業所名	グループホーム陽だまり苑(川東ユニット)		
所在地	新潟県新潟市岡田1746番地1		
自己評価作成日	平成22年3月8日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成23年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・木造平屋造りで広く自由に動ける空間を確保している為、車椅子でも自立して生活が送れている。又、同敷地内に特養が併設している事から、支援体制も整っているため、心身状態が低下しても可能な限り、グループホームで生活が出来る。

・利用者と家族、そして職員の絆を大切にしており、定期的に自宅に帰れる支援や家族と共に過ごす機会を多く持つよう支援している。また家族と一緒に楽しんで頂けように家族参加のイベントに力を入れており、夏には七夕会や陽だまり苑祭り、冬にはクリスマス会を盛大に開催し、楽しんで頂いている。

・日常生活においての役割づくりや自分の思いを表出しやすい関係づくりに努めている事で、張り合いを持ち、生き生きとした表情で生活されている。

・苑の中庭の一画に畑を作り、利用者と職員と一緒に管理して、穫れた野菜を食卓にのせて楽しんで頂いている。

・感染症対策に力を入れており、感染症委員会を中心とした勉強会を全職員が受け、日常業務マニュアルとして予防に努めている。そして、蔓延時は看護、管理栄養士などから専門的な指導を受けられるバックアップ体制が出来ている。また、利用者、家族、来苑者にも十分な説明を行い、マスク着用や手洗い、うがいの励行、外出を控えて頂くなど、感染予防に理解と協力を頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、新潟市郊外の自然豊かな地域に立地している。近くには、あやめで有名な五十公野公園があり、それ以外にも季節の花や山の景観、四季の移り変わりが楽しめ、利用者が穏やかに暮らすには良い環境である。

敷地内には同法人の特別養護老人ホームがあり、また、ホームの外苑には観音像が建立されており利用者の日常的な散歩コースになっている。

木造平屋建て造りのホーム内は、広く天井が高いため開放感があり、清潔に整えられ、季節や地域色を活かした装飾がされている。

介護や生活支援の面では、センター方式のアセスメントを活用して本人の思いやこれまでの暮らしを大切にケアに努めており、感染症予防にも熱心に取り組んでいる。在宅医療に熱意のある協力医とも良好な関係であり、24時間を通じて協力が得られ、医療面での安心感もある。また、ホームでは終末期の対応はしていないものの、重度化した場合は併設の特別養護老人ホームへの移行支援をうけることができ、本人と家族の安心につながっている。

管理者・職員は家族との関係を大切に考えており、日常的な連絡だけでなく、ホームの行事にも家族を招き利用者ともども一緒に楽しみながら関係を深めている。平成22年からは、行事後にはミニ家族会を開催し、家族からの意見も積極的に運営に活かそうと取り組んでいる。管理者・職員のケアへの熱意と利用者への優しさ、人間味が感じられる温かな雰囲気のあるホームである。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が自己の持つ力を十分に発揮し、日々の生活に張り合いや喜びを感じながら、住み慣れた地域で自分らしく生活が送れるよう、管理者と職員は理念を共有し、実践につなげている。	ホームの理念を職員全員で共有するため玄関に掲示し、また職員会議で職員それぞれが、その理念をどのように理解しているかを話し合ったり、レポートに書く(「振り返りシート」を活用)などしている。これらにより方向性を統一して実践に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏には法人全体の夏祭りが催され、地元の人々の協力参加や、毎年11月に開催されている地域の川東文化交流展に作品を出展し、見学に行くなど、地域とのつながりを大切に、支援している。	法人行事の際は地元の住民の協力・参加を得ている。地区の文化交流会への作品展示や、地元の言葉で地域の歴史や物語を伝承していく「語り部の会」などにも参加するなど、周囲に民家が少ないという環境の中でも、地域とのつきあいを大切にしながら工夫して取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行するホームだよりを地域の回覧板に回して頂き、利用者の生活ぶりや活動を紹介すると共に、地域の人々にも役立てて頂けるような情報等発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの活動やサービスの評価や取り組み状況を報告し、話し合いを行っている。会議では、有益な情報や意見を頂いており、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議には利用者代表、家族代表、職員など当事者のほか、自治会長や民生委員にも参加してもらい、運営について意見を交わしている。自己評価や外部評価の結果についても報告し意見を求めている。会議での話し合いが、防災協力や園芸ボランティアなどの取り組みに具体的に結びついている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、地域包括支援センター職員にも出席して頂き、意見や情報を頂いている。市の介護相談員も定期的に来苑し、意見交換を行って、サービスに活かしている。	法人代表者が中心となって市との連携を行っており、制度に関する相談や情報伝達などしている。また、市の介護相談員の定期訪問を受け、利用者の希望や意見等を聞いてもらい、サービスの向上に活かしている。	現在のところ管理者が市担当者と気軽に連絡・相談をするという関係には至っていない。今後は積極的にホームの情報を提供したり、運営推進会議に招くなど関係構築を進めていく意向である。その実現に向けて積極的に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および全ての職員は、身体拘束しないケアの実践に向けて研修を受け、正しく理解するとともに、その遵守に努め、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアを実践している。職員は、毎年度1回は法人主催の身体拘束のないケアのための研修会に参加しており、職員会議でも日々の自分たちのケアを振り返る機会をもっている。管理者と職員は言葉での行動抑制もないように、声かけをする場合は意識して実践している。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、職員会議で高齢者虐待防止について勉強会を開催し、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止および関連法についての研修会を法人全体で毎年度実施しており、職員が参加している。さらにホームの職員会議でその内容を取り上げ、職員一人ひとりの価値観や専門職としての意識など、ケアの中で感じる事柄を話し合い、意識の向上や理解浸透に取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護に関する制度を学ぶ機会として、成年後見人制度について職員会議で勉強会を開催し、個々の必要性に応じ、活用できるようにそなえている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、利用者、家族の不安や疑問に対し、十分な説明を行い、ホームの運営方針や支援の在り方に理解、納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を話しやすい関係作りに努めており、玄関には意見箱を設置し、表出しやすい環境を整えるなど、きちんと受け止める姿勢を示している。またアンケートを実施し、より一層の意見、要望の引き出しに取り組んでいる。	平成22年7月の「七夕会」の後に、来訪した家族と職員でミニ家族会を開催し、家族から普段思っている事を気軽に表出してもらうことができた。また、事前に質問の内容や順番にも工夫をした利用者アンケートを実施し、「ごはんの固さ」など具体的に寄せられた意見を運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の場で意見交換したり、日頃からの疑問、問題点があればきちんと話し合い、運営に反映させている。	管理者と職員は日常的に意見を言い合える関係にあり、職員会議では互いに意見を出し合い建設的な話し合いがなされている。外来者が分かりやすいようにホームの看板設置の提案が実行されるなど、職員の意見は具体的に反映されている。人事異動においても職員の意思を確認し、本人の生活や健康の状態を勘案している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の働きぶりを把握するとともに、半年に一度の自己評価を通し、各自仕事への見直しや新たな目標により、向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、新人研修を初めとし、法人全体の年間研修を計画し、全職員が参加する事で学ぶ機会を確保している。また、法人外の研修にも参加し、職員会議で発表することで、他職員も学ぶ機会となっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所とは、必要時連絡を取り合い情報交換を行ったり、また認知症リーダー研修の受入れや訪問を通じて、お互いの取り組みや、問題、課題点など話し合う良い機会となっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問時に、本人、家族より話をよく聞き、問題や不安、また希望している事などを把握し、本人が安心して生活できるよう、積極的に関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の訪問時や、入所後も家族の背景や抱えている問題、不安な事、また希望などをよく話し合う機会を持ち、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーや窓口の相談員からの情報、また面談での情報に基づき、本人や家族がまず必要としている支援の見極めを行い、初期対応できるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と多くの時間を共有する中で、喜怒哀楽を共にし、また昔ながらの慣習や知恵を教えて貰い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と共に本人の生活を支えていくことの大切さを十分理解しており、家族との連携や良い関係づくりに努めている。また本人と家族と一緒に過ごす機会として、家族参加のイベントに力を入れ、催しや食事会等、家族と席を並べて楽しんで頂いている。	本人について情報共有できるよう随時電話等で家族に連絡をしている。季節行事などには随時お誘いしたり、本人への対応やケアについて一緒に考えるなど、本人と家族の絆を大切にしたり取り組んでいる。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来苑時には、温かく出迎え、ゆっくり過ごして頂くよう配慮している。また、馴染みの店や希望する理美容院などには、家族や職員で対応し支援している。	親族や知人には、気軽に来訪し本人に会ってほしい旨を伝えている。面会時は落ち着いて過ごせるよう、居室のほかにはデイルームやコミュニティルームが利用できるようにしている。また、行きつけの床屋など馴染みの店の利用を希望する方には、家族と相談の上、希望に応じられるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う仲間同士交流しやすいよう配慮すると共に、コミュニケーションが取りづらい利用者には職員が積極的に関わり、一人孤立することのないよう、支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、併設の特養へ移られた方への面会や、家族からの悩みや相談も受け、関係を断ち切らない取組みを行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の希望や意向を汲み取り、また、本人が話しやすい場面作りを行いながら、把握に努めている。	センター方式のアセスメントシートを使用して本人の思いや意向を把握している。利用者一人ひとりの担当職員を中心として本人の言葉や態度を注意深く観察し、「本心はどうなのだろう」「我慢しているのではないか」と思い返すよう心がけ、本人本位での検討に努めている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らしぶりを十分に聞き、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の把握に努め、支援に活かしている。	これまでの暮らしを把握するため、入居前に本人や家族等から情報を聞いたり、在宅時の介護支援専門員からサービス利用経過や情報を得ている。また、日々の本人との会話や観察から生まれや名前の由来、出来事などの情報を得て、センター方式のアセスメントシートを使って整理し、職員間で共有して暮らしの理解に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方、状態を毎日個別の支援経過に記録し、職員間で情報を共有し、必要時カンファレンスを開催し、現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の暮らしへの意向をよく聞いた上で、職員間でカンファレンスし、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について検討している。また必要に応じては主治医の意見も取り入れるなど、それぞれの意見が反映され、現状に即した介護計画になっている。	利用者の担当職員が、本人の状態や本人から聞く「生活の潤いや楽しみ」を踏まえ、他職員の意見を聞きながら計画を作成している。家族の意見や希望は訪問時や電話などで聞きとり計画に反映させている。また、主治医の意見は受診同行時や家族を通じて確認している。作成した介護計画は職員会議等で周知し、6ヶ月に1度評価している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別に支援経過を記入し、重要な事項はフロアー日誌に記録し、申し送りにて全職員が情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の特養やデイサービス、居宅介護支援事業所との連携により、必要に応じて柔軟な支援ができる体制である。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族との外出や地域文化交流展への参加、ボランティア訪問、消防署の立会いの避難訓練など、地域資源を活用しながら、一人ひとりの暮らしを支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を取り入れ主治医を決めており、受診時は必要に応じて職員が同行し、状態報告などを行い、適切な医療を受けられる様支援している。	入居前のかかりつけ医の継続を基本としており、希望によってはホーム協力医への変更も可能である。受診付き添いは家族等が行っているが、家族の付添いが困難な場合や急を要する場合には職員が行っている。ホームの協力医とは往診や24時間を通じた協力体制が構築されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養看護師やかかりつけ医の看護師と必要に応じ、健康状態について相談しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と相談の上、ホームで支援が可能な状態であれば早期退院も可能である為、家族、医療機関と密に連携をとり支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方、延命治療を望むかなど、早い段階で本人や家族に意向を伺い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有している。また、併設特養への転所も相談員と連携し、支援している。	終末期や看取りの対応はしておらず、入居の際に文書配布とともに説明している。重度化した際には併設の特別養護老人ホームや他施設への移行を支援している。重度化や終末期についての本人・家族の気持ちは状態に応じて移り変わるものであることを理解し、その都度話し合いを行い、その内容は「意向確認書」として書面で整備している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時対応の研修に参加し、人形を使っての心肺蘇生の訓練を行ったり、各自マニュアルを熟知することで、急変や事故発生に備え、対応できるように取り組んでいる。	すべての職員が毎年度救急救命訓練を受講している。また、急変時や事故発生時の対応マニュアルが整備されており、実践力を身につけるための対応訓練も定期的に行われている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には、地域消防団の支援を受けられるよう協力体制ができてる。また、定期的に避難訓練を実施し、万全に備えている。昨年の9月の避難訓練では、地元の防災委員の方にも直接参加して頂いている。	ホーム・法人だけでなく地域住民や地域避難所等も含まれた緊急連絡網が作成されており、万一の際の速やかな連絡と避難ができるよう備えている。年2回防災訓練を実施しており、地元消防団による避難補助など地域の協力も得ている。備蓄物については、自治会長へ有事の際の食糧の支援を依頼している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた会話や誇り、プライバシーに配慮した言葉かけや記録を行っている。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーへの配慮する意識が職員に徹底されており、声かけ、入浴・排泄介助、記録など全般において実践されている。本人の希望があれば居室の鍵を掛けることができ、居室でのプライバシーを確保している。また、入浴や排泄の際は希望によって同性介助で対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を聞くように努め、個々の力に合わせた言葉かけや説明を行い、自己決定ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、一人ひとりのペースを大切にしており、本人の希望にそって支援している。また、行事や催事が予定されている場合には、事前に本人に確認をとり、希望に添うようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容院がある利用者に対しては、本人の希望に添って支援している。また、個々の力に合わせて、洋服を選んだり、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好物や季節の食材を取り入れた献立の工夫や、手作りのおやつを利用者と職員で作り、楽しんでいる。また、一人ひとりの力を活かしながら調理や片付けを行っており、和気あいあいとした雰囲気の中で、食事を楽しんで頂いている。	利用者一人ひとりが力を活かして、野菜の皮むき、食膳の準備や片づけ、「いただきます」の呼令、テーブル拭きなどを無理のない範囲で行っている。献立は、その日の利用者の希望によって柔軟に変更している。利用者同士のトラブルを未然に防ぎ皆で楽しく食事をしてもらえるよう、椅子やテーブルの配置、席などにも配慮している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を毎日記録し、一人ひとりの健康管理に役立てている。個別の食事量の調整や食事形態、水分確保の工夫など、一人ひとりの状態や習慣に応じて支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じ、職員の介助や声かけ、見守りの中で支援し、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声掛けや誘導、夜間のみポータブルトイレを設置するなど、トイレでの排泄をより可能にし、気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄が継続できるように、利用者一人ひとりの排泄リズムの把握につとめ、安易に紙パンツを使用しないケアに取り組んでいる。トイレの表示はわかりやすいものとし、また、花の飾りをつけるなどして目を引くようにし、利用者が迷わずトイレへ行けるよう工夫している。排便についても下剤の使用が過度にならないよう医師に相談し、水分補給や食事の工夫、運動等を取り入れて自然な形で排泄できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の好みを把握して水分補給に努めたり、献立に繊維質の食材を多く取り入れる等工夫している。また、適度な運動や体操も日常的に支援し、便秘予防に努めている。慢性的な便秘の方には、個別に医師と相談し、排便支援を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や気分を大切に、ゆっくりと本人のペースで入浴を楽しんで頂くよう支援している。菖蒲湯、ゆず湯など季節行事を取り入れ、目や肌で感じて楽しんで頂いている。	入浴時間の基本は午後から夕方となっているが、回数や時間については、体調や季節などを配慮しつつ、なるべく本人の希望やその日の気分に応じるよう努めている。湯温の好みや、一番風呂が好きな方など、一人ひとりの嗜好に応じるようにしている。入浴を楽しんでもらえるようゆず湯や菖蒲湯なども実施している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、自分のペースで日中過ごされ、状況に応じて自ら休息されている。適度な運動や体操、家事作業など体を動かすことで、夜間の良眠につなげるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの病気や薬の効能を理解し、医師の指示通り服薬できるよう支援すると共に、症状の変化を確認し、変調の見落としのないよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かせるような役割づくりや、趣味や楽しみごとが継続できるような環境を整え、張り合いや喜びのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物に同行されたり、敷地内の観音様や近くの店まで散歩がてら買い物に行かれるなど、一人ひとりの希望を取り入れながら、戸外に出る支援を行っている。	希望があれば散歩は日常的に行われている。近くの工場の「せんべい直売所」にも気軽に出かけている。コンビニや衣料品店、散髪、墓参り、喫茶などの希望に対しても、家族と共に協力しながら外出支援をしている。ぶどう狩りや足湯、季節ごとの花見などの外出行事も利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて支援しているが、家族や本人の納得のもとで所持する金額を決めている場合もある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自由にかかけたり、手紙や葉書のやり取りを支援し、家族や大切な人とのつながりを大切にしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の中心となっているダイニングには、季節の飾りつけや小物、絵や書を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。窓も多く、明るく開放的な雰囲気となっている。	共有空間は広く、天井が高いこともあり、開放感のある造りとなっている。「陽だまり苑」の名のとおり、採光がよく、とても明るい。空気の流れもよく、清掃が徹底されているため不快な臭いや汚れはない。玄関や各所のテーブルに季節の花が飾られており、利用者が作成した季節の飾り付けもされている。共有空間全体に清潔感があり利用者にとって居心地の良い環境となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活の拠点となっているダイニングでは、いつも利用者同士賑やかに交流しているが、デイルームやコミュニティールームなどは、独り静かに過ごせる場ともなっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、自宅で使っていた馴染みの家具や衣類、家族写真など思い出の品をそのまま使って頂き、居心地よく過ごせるよう支援している。	居室にはエアコン・洗面台・床暖房・押入が備わっているが、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせる居室となるよう、入居の際は馴染みのある家具や物品・家族の写真などの持ち込みを積極的に働きかけている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、廊下、トイレ、浴室など手すりが設置されて、安全に移動できるようになっている。個々の居室やトイレ、浴室には見てわかりやすいネームや看板を掲げ、自立した生活が送れるよう支援している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		